

# ひろしまの遺跡

第108号

## 中世のムラの共同墓地を調査

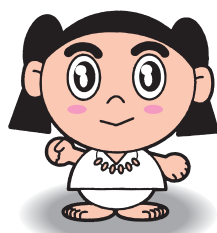
(三次市 みすみやま 三隅山遺跡)



1~7・18号墓(南西から)

遺跡から長田地区の集落を望む

中世のムラの共同墓地の  
様子がわかったね!!



ひろちゃん



やよいちゃん



# 発掘調査速報

## 三隅山遺跡(三次市三良坂町長田)

調査期間 平成24年4月9日～8月10日

三隅山遺跡は、江の川水系長田川の西側の丘陵斜面に立地しています。

遺跡では斜面を削平した4段の平坦面に、古墓28基、溝(SD)9条、土坑(SK)4基、性格不明の遺構(SX)3基、その他柱穴を確認しました。

古墓の大半は集石墓で、方形あるいは方形に近い形状を示し、一辺1.5～1.7m程度で最大2段の積石が残るものと一辺0.6m程度ものがあります。20-2号墓や21-4号墓は集石下層から人骨が出土していますが、1～9・16・22号墓は石材を除去後に下部で埋葬土坑が見るなど、埋葬の方法に違いがあります。

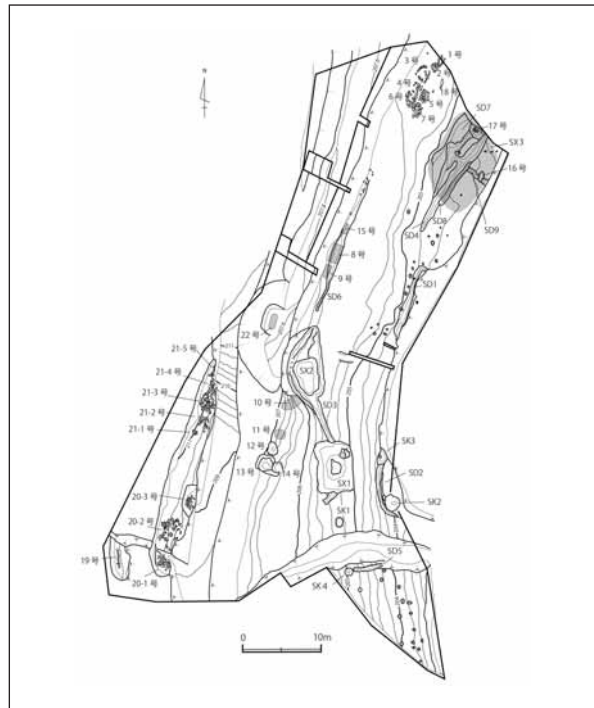
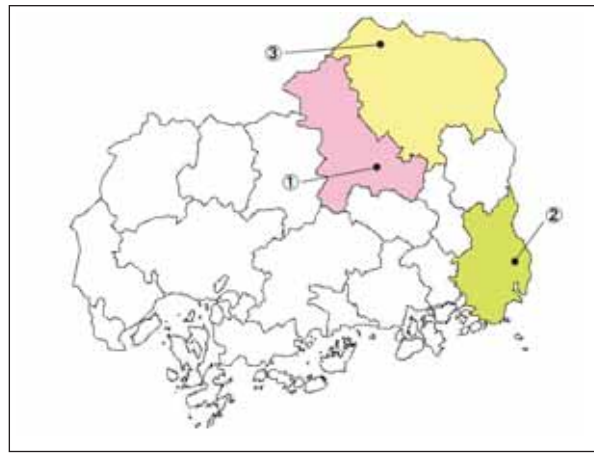
SX1は中央付近が「島」状に掘り残されています。この遺構はSX2(SX2の東側斜面に湧水地がある。)に溜まった湧水がSD3を通じてSX1に流れ込んでいたと考えられることから、水を溜めていた施設と思われます。

三隅山遺跡の東側・北西側に寺迫・堂面といった地名が残っていることから、遺跡付近に寺院が存在していたと思われます。

三隅山遺跡は水溜と思われる施設(池泉)があることや、水溜施設の北側で8・9号墓とSD2との間で柱穴群が存在することから、共同墓地に伴う草堂が存在していた可能性も考えられます。

古墓群やその他の遺構の時期は、出土遺物の土師質土器(皿)、亀山焼系陶器(甕)、須恵質土器(摺鉢)の形態から16世紀から17世紀にかけて築造されたものと考えられます。当地域において、中・近世遺跡の調査は少なく古墓の下部構造の変化や当時の墓域のあり方などを検討する貴重な調査例となりました。

(山田繁樹)



三隅山遺跡遺構配置図



19～21号墓の検出状況(北東から)





## ごりょう 御領遺跡(第5次)(福山市神辺町上御領)

調査期間 平成24年4月9日～7月26日

御領遺跡は縄文時代～中世の集落遺跡で、規模は南北1.4km、東西1.6kmの範囲に広がっており、県内でも有数の規模を持つ遺跡です。発掘調査は国道313号改良事業に伴い平成20(2008)年から継続して実施しており、今回で第5次目になります。調査地点は、遺跡の東部の第4次調査区の北東側に隣接する調査区(本線調査区)と、遺跡の西端の第1～3次調査区付近(市道調査区)の2か所です。

本線調査区では、竪穴住居跡3軒、溝状遺構2条、土坑14基、ピット群多数を確認しました。竪穴住居跡のうち、SB1は5m×5mの隅丸方形、SB2は4m×4mの方形です。SB1・2は重なり合っており、SB1が埋まった後にSB2が作られていました。SB1の時期は古墳時代前期です。弥生時代中期の住居跡SB3は直径約4mの円形状で、床面の所々に炭化材が放射状に残っていました。溝状遺構のうち、SD1は幅が約1.5m・深さが約0.3cmで溝内から古墳時代前期の土師器が出土しました。本線調査区の出土遺物は、弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器など弥生時代～平安時代の土器のほか、石鏃・磨製石斧などの石器類、鉄器(鉄鏃)が出土しました。このように、御領遺跡の東部では時代幅のある遺構が確認されたことから、神辺平野の集落立地を考察する上で貴重な資料が得られました。

市道調査区では、溝状遺構2条、土坑1基、ピット多数を確認しました。SD1は幅2m以上、SD2は幅1m程度で東西方向に並行し、SD1から弥生時代～古墳時代の遺物が、SD2から古墳時代の遺物が出土しています。さらに、P4やP11からは縄文土器・石鏃が出土しました。市道調査区での縄文時代の遺構や遺物の出土は、過去の調査事例も含めて御領遺跡西部域に縄文時代晩期頃の集落があったことがうかがえます。(唐口勉三)



本線調査区(西側)全景



本線調査区(SB1)



市道調査区全景



市道調査区・縄文土器出土状況



おかひがし  
 **岡東第1号横穴墓** (庄原市高野町岡大内)

**調査期間 平成24年9月3日～9月21日**

平成25年3月の開通をめざして工事が急ピッチで進む中国横断自動車道尾道松江線（三次JCT以北）の工事現場で7月に横穴墓が発見されました。

横穴墓は、平成20年度に調査した岡東古墳群（7基）のある丘陵の南斜面にありました。工事中の発見であったために、横穴墓の天井部は崩落しており、天井部の状況はわかりませんでした。羨道入口部には扉石にふさわしい長方形の閉鎖石1枚が見つかりました。調査の結果、墓道や羨道、玄室という横穴墓を構成する遺構を確認できました。

羨道入口部の大きさは縦0.75m、横0.58mで、大人一人が屈んで出入りできる程度の大きさでした。

羨道は長さ0.9m、幅0.54mで天井部の一部は剥落していました。

玄室は両側に袖部を有する両袖形です。長さ1.2mで、幅は羨道部側で1.1m、奥壁側で1.2mで、床面中央部が僅かに窪んでおり、この窪みが玄室内の仕切りの痕跡であった可能性が考えられます。

出土遺物には、墓道の埋土中から須恵器（高杯）、鉄器（刀子・鍬）があります。また、玄室内からは少なくとも、人骨2体分を確認しました。これらの人骨は玄室中央部に存在する仕切り状の窪みを挟むように安置されていました。

横穴墓の築造年代は、須恵器の形態から7世紀中頃と推定されます。

今回、調査した横穴墓の玄室は断面三角形状で妻入り型と呼ばれるもので、遺体を玄室の両サイドの狭い場所に置いており、こうした特徴は島根県仁多郡奥出雲町の殿ヶ迫横穴墓や角・宮ノ峠横穴墓などの島根県奥出雲地方の横穴墓に共通しています。また、出土の須恵器も出雲地方の特徴がみられることから同地域とのつながりをもった被葬者像が考えられます。（辻 満久）



横穴墓の調査風景



玄室内の人骨出土状況



羨道入口を塞ぐ板石



玄室奥壁の様子



## ◎広島修道大学生 7名の博物館実習を実施

大学における博物館学講座の単位取得の一環として、博物館学を履修する学生を一時的に受け入れ、文化財施設における知識及び技能を習得させることを目的に実施しました。7人の学生の方々が8月1日～8月3日までの間、実習に取り組みました。

実習では、資料の取扱いに関する実習として、資料の観察、実測、拓本取り、資料の展示・梱包法、写真撮影などについて、真剣に取り組みました。参加者の感想文には、「本物の土器・瓦などに触れ、初めての実測や拓本取りができ、貴重な体験をさせていただきました。」「遺物の収蔵や図面・図書の整理など正確に記録を伝えていこうという姿勢に感激しました。」「難しかったのは実測でした。この慎重な作業があつてこそ、今の私たちに情報が伝わるのだなと感じました。」などの感動が綴られており、貴重な体験学習になったようです。



拓本の実習

## ◎ひろしま考古学講座好評開催中

### —歴史に学ぶ・ひろしまの過去から未来へ—

埋蔵文化財調査室では、広島県の歴史や文化の成り立ちについてわかりやすく解説する講座を次のとおり開催しています。奮って参加ください。



講座の様子

### ①会場：南観音公民館第1研修室（広島市西区観音新町2-16-46）

開催日	演題	講師
11.24（土）	装飾大刀からみた古墳時代の広島	日本考古学協会員 新谷武夫
12.15（土）	発掘から見直す広島城「島普請」	広島修道大学 後藤研一
2.23（土）	中国・四川省の遺跡と博物館	（財）広島県教育事業団 河村靖宏

### ②会場：広島グリーンアリーナ（中）会議室（広島市中区基町4-1）

開催日	演題	講師
11.25（日）	広島湾周辺の古墳と阿岐国	芸備友の会代表 脇坂光彦
12.1（土）	謎の弥生土器・大型甕形土器	（財）広島県教育事業団 山田繁樹
2.17（日）	甲立古墳から考える古墳時代の広島	安芸高田市教育委員会 川尻 真
3.10（日）	中国・四川省の遺跡と博物館	（財）広島県教育事業団 河村靖宏

# 考古学 アラカルト 40

## 広島県内の経塚遺物

仏教の世界では、釈迦の死後、正法・像法（各1000年）、これが終わると人々がいくら修行しても悟りを開くことができない末法の時代が来るといわれました。我が国では永承7年（1052）が末法の世に入る年であるという説が広まりました。ときあたかも、世の中は飢饉や疫病、自然災害、戦乱などが相次いだため、人々は現世の不安から逃れるために、来世に救いを求める浄土信仰や弥勒信仰が盛んになりました。

このために、経典を写経・埋納すること自体が、浄土信仰では極楽往生するための作善の一つになると考えられ、多くの有力者によって経塚が築かれました。我が国最古の経塚は藤原道長が極楽往生を願って自ら書写した法華経等十五巻を経筒に入れて寛弘4年（1007）に埋納した奈良県金峯山経塚です。

以後、全国各地で経塚造営が盛んに行われました。鎌倉時代以降は、六十六部聖たちによる全国の各地の霊場への経筒奉納も盛んになりました。

特に、室町時代後期には多くの六十六部聖たちによって大量の経筒が各地の霊場である寺社に奉納されました。この頃になると、経筒奉納の目的は平安時代の極楽往生とは異なり、現世利益、追善供養、逆修などが多くなりました。また、経筒の大きさをみると、高さは平安時代に約25cm前後であったものが、時代の推移とともに、室町時代には約10cm前後と、小型化しました。これは六十六部聖たちが各地の霊場に運搬するにあたって小型・軽量化が図られたものと考えられます。

さて、広島県内の経塚の分布状況を見ますと、平安時代～鎌倉時代のものは、三原市・東広

島市・安芸郡・廿日市市など安芸国で多く確認され、中世から近世にかけて造営されたものでは、納経塔や一字一石経塚が県内各地に築かれました。

平安時代後期の経塚である三原市本郷町宮



西野田経塚経筒  
(京都国立博物館蔵)

仕川経塚では銅板製経筒1とともに、1基の経塚からの出土量としては、全国最大の16面の鏡のほか、懸仏2、太刀1、刀子16、青白磁合子3などが発見されています。これらは鍛冶屋迫第4号古墳石室天井石の上に小さな小

石室を組み、この中に経筒を置き、小石室以外には円形状に刃を外に向けた刀子や折り曲げた太刀も並べ、その内側には鏡16点が鏡背面を上にして配置されていました。また、宮仕川経塚の南方約700mに所在する西野田経塚では鑄製経筒1、鏡3、白磁小壺1、ガラス製小壺3、同小玉47、太刀類11などが出土しています。これらは土坑底面の中央に経筒や短刀2を並べ、これを囲むように小石室を造っていました。さらに、石室を取り囲むように円形状に太刀類を並べて一周させていました。宮仕川及び西野田経塚には、経筒を中心に鏡や太刀類の副納品を規則的に並べて配置する状況は共通点が多く、当時の経塚の埋経儀礼をうかがう上で貴重な資料となっています。

廿日市市厳島神社西方約300mにある経尾経塚では経筒1、陶製外容器1、鏡1、青白磁合子1、経箱金具、鉄刀片などが出土しています。合子は中国からの舶載品で、身内部には中心の蓮の蕾から三方に蓮茎が伸び、その間に杯形の葉が立体的に配置され、蓮池を表現しています。平安時代後期の経塚で数例が確認されていますが、これらは埋経作法で行われる十種供養に使用したのではないかとされています。



廿日市市経尾経塚の青白磁合子（厳島神社蔵）

鎌倉時代から室町時代後期にかけて六十六部聖とよばれる回国の聖たちによって全国で六十六か所の霊場を巡拝し、法華経などを奉納していますが、県内にも紀年銘ある経筒が2か所で発見されています。一つは世羅町丸



世羅町丸小山経塚出土経筒（善法寺蔵）

小山経塚です。経筒は銅板製で高さ10.1cm、直径4.5cmです。筒身の表面には鍍金が施され、内部には厨子入り木造十一面観音立像が入れられていました。経筒内から木造仏の出土例はありません。

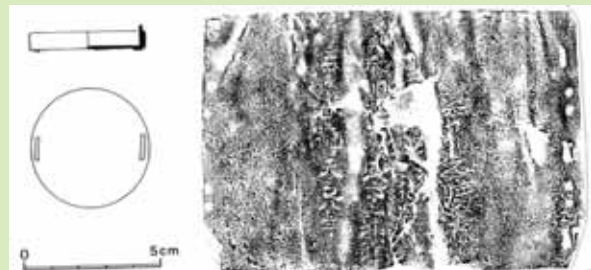
また、筒身表面には「十羅刹女 山城國住 清海／（種子（バク・釈迦如来））奉納大乘妙典六十六部聖／三十番神 天文四年今日日」の銘文があります。

もう1点は、廿日市市厳島神社境内の旧納経堂跡付近から発見されています。

厳島神社は安芸国一の宮として知られ、備後国吉備津神社や浄土寺とともに、六十六部

聖たちの巡拝地として知られていた霊場です。

経筒は銅板製で高9.5cm、直径4.3cmで、底



厳島神社境内出土経筒実測図・拓本

板と筒身に分かれています。蓋は見つかりません。銅板の両端には、板を丸めて固定した舌や孔が加工されています。筒身表面は鍍金され、「奥岳之慶春／十口口女／（種子（バク・釈迦如来））奉納大乘妙典六十六部聖／三十番神 天文八年／今日吉日」の銘文が見られます。

丸小山経塚及び厳島神社境内から出土した経筒銘の「清海」及び「慶春」という人名は、現在知られている全国各地から出土した回国経筒約330点の銘文には見られないもので、人物像は明らかにできません。遠く山城國（京都府）や奥州（福島県・宮城県・岩手県）からやってきた六十六部聖たちは、どのような願いを込めて奉納したのでしょうか。

江戸時代以後の経塚は、県内各地に所在しています。一字一石経塚は、地域の人々が結縁して、先祖供養のために墓地に造立したり、河川の堤防が決壊したために復旧した新堤防上の堤防護持を祈願して、法華経の経文を礫に書いて埋納しています。また、寺院の再興記念や旅人の安全通行、飢饉による死者の供養のために、法華経を写経し、甕などの入れて石積基壇の中に埋納し、その上に宝篋印塔や自然を立てて、造塔しているケースもあります。こうした造塔は、県中央部から備後地方に多いようです。

世羅郡世羅町では、現代でも埋経の思想は伝えられ、世界平和や世上安穩などを祈念して、一字一石経塚が築造されています。（向田裕始）



平成24年度

# 「ひろしまの遺跡を語る」

中国山地の旧石器文化を考える  
—移動生活と運ばれたモノ—  
を開催します。



只野原3号遺跡の  
ナイフ形石器



只野原3号遺跡

**日時** 平成25年1月19日(土) 10:00～16:30

**会場** 広島県民文化センター 多目的ホール

**内容**

- 1 事例報告Ⅰ「和知白鳥遺跡(三次市和知町)の発掘調査」 (財)広島県教育事業団 山田繁樹さん
- 事例報告Ⅱ「只野原3号遺跡(庄原市高野町)の発掘調査」 (財)広島県教育事業団 青山 透さん
- 2 研究発表 「備北地域の旧石器遺跡」 (財)広島県教育事業団 辻 満久さん
- 3 基調講演Ⅰ「旧石器時代の環境とくらし」 広島大学総合博物館 藤野次史さん
- 基調講演Ⅱ「山陰から中国山地の旧石器文化」 島根県古代文化センター 丹羽野裕さん
- 4 シンポジウム コーディネーター 藤野次史さん  
パネラー 丹羽野 裕さん 山田繁樹さん 青山 透さん 辻 満久さん

**入場料無料**  
(申込不要)

平成24年度中国横断自動車道尾道松江線建設事業に係る

## 埋蔵文化財発掘調査報告会 —ハイライト②・中世の城跡と墳墓— を開催します

平成14年度から中国横断自動車道尾道松江線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査を行っています。これまで、多くの古墳をはじめ、旧石器時代から古代の多彩な遺構・遺物が発見され、地域の歴史像の解明に重要な手がかりをもたらしています。今回はこれまでの発掘成果のなかから、特に、注目される山城・墳墓等4か所について、わかりやすくスライドを使いながら報告します。

- 主催**：財団法人広島県教育事業団 広島県立歴史民俗資料館
- 日時**：平成25年3月2日(土) 13時～15時20分
- 会場**：広島県立歴史民俗資料館研修室(三次市小田幸町122)
- 報告する遺跡**

**参加費無料**  
(事前申込不要)

No.	遺跡名	所在地	種別
1	家ノ城跡	尾道市木ノ庄町	山城跡
2	牛の皮城跡	尾道市御調町	山城跡
3	大柳遺跡	世羅郡世羅町	寺院跡
4	三隅山遺跡	三次市三良坂町	墳墓

財団法人広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報  
**ひろしまの遺跡 第108号**

発行日 平成24(2012)年11月22日  
 編集 財団法人広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室  
 〒733-0036 広島市西区観音新町四丁目8番49号  
 TEL(082)295-5751  
 ホームページ <http://www.harc.or.jp>  
 E-mail [maibun@harc.or.jp](mailto:maibun@harc.or.jp)  
 発行 財団法人広島県教育事業団  
 印刷 ㈱エル・コ